家畜保健衛生所たより　　令和3年度　第7号　令和3年4月20日

豚、いのししを飼養する皆様へ

豚熱続発！飼養衛生管理の再徹底をお願いします!!

〇現在、全国のワクチン接種推奨地域において、豚熱の発生が続いています（山形県、三重県、和歌山県、奈良県、群馬県、栃木県）。
〇ワクチン接種農場でも豚個体によって差異があるため、免疫を獲得していない豚が存在することが分かってきています（次頁参照）。
〇また、県内において野生いのししからの豚熱陽性確認も続いています（東部管内では10市町村で陽性確認）。
〇さらに、今月5日には台湾本島北部の海岸に漂着した豚の死体からアフリカ豚熱ウイルスの遺伝子が検出されています。

ウイルスはどこからでもやってくる可能性があります!!

生産者の皆様へ

今までの豚熱発生農場における国の疫学調査では、
・豚の豚舎間移動時に地面やコンテナの消毒が不十分
・豚舎に入る際の作業者の手指消毒が不十分
等の指摘がなされています。
・ワクチン接種をしても、全ての豚が免疫を獲得できるわけではなく、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難です。
・引き続き、飼養衛生管理基準を遵守し、異状を発見したら、直ちに家畜保健衛生所までご連絡ください。

連絡先：山梨県東部家畜保健衛生所
電話：055-262-3166　FAX：055-262-3108
夜間・土日・休日の連絡先：090-5535-8005
土日・休日の連絡先：090-5544-7868

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

○ ①ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。

○ このため、ワクチン接種農場においても、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための、飼養衛生管理の徹底と豚に異状がみられた場合の早期通報が必要不可欠。

①免疫付与率80%

■ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。

・ ワクチンの抗体付与率は80～90%

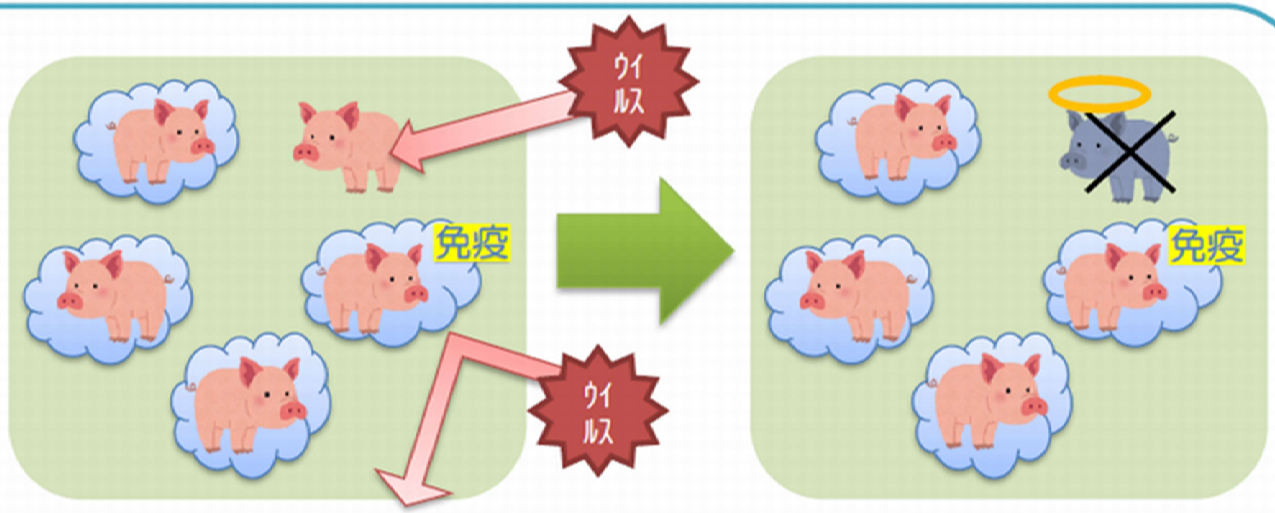
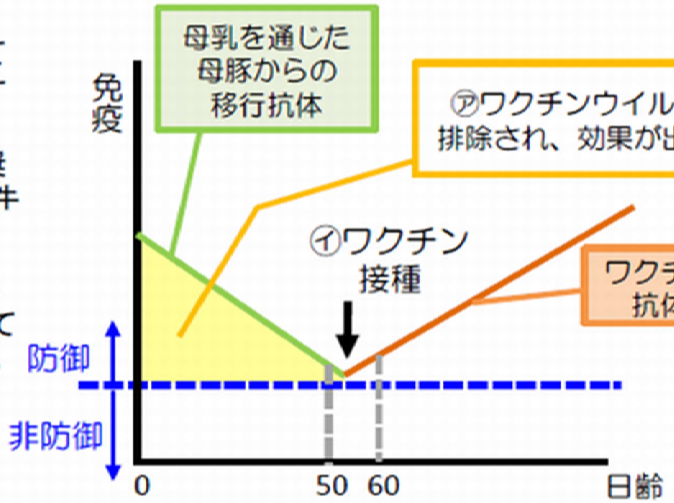
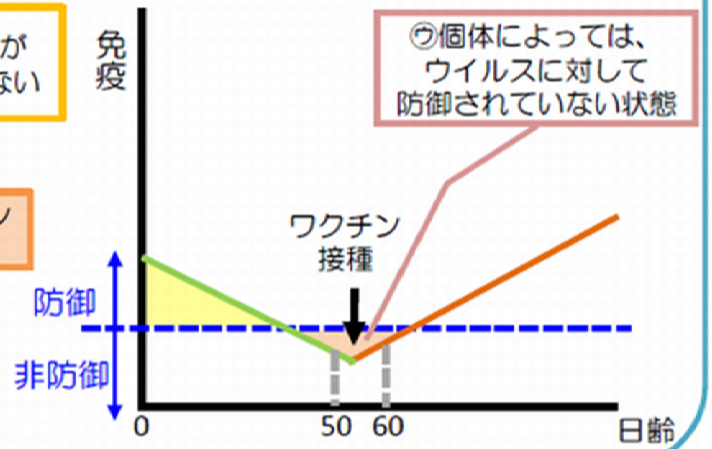
②子豚

■全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。

㋐ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない

㋑ 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現

・用法・用量では、1～2か月齢での接種を推奨

・現状、50～60日齢程度での接種が望ましい（牛豚小委議論）

㋒ しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難